

成熟を求める祈り

1:9 こういうわけで、私たちはそのことを聞いた日から、絶えずあなたがたのために祈り求めています。どうか、あなたがたがあらゆる霊的な知恵と理解力によって、神のみこころに関する真の知識に満たされますように。1:10 また、主にかなった歩みをして、あらゆる点で主に喜ばれ、あらゆる善行のうちに実を結び、神を知る知識を増し加えられますように。1:11 また、神の栄光ある権能に従い、あらゆる力をもって強くされて、忍耐と寛容を尽くし、1:12 また、光の中にある、聖徒の相続分にあずかる資格を私たちに与えてくださった父なる神に、喜びをもって感謝をささげることができますように。1:13 神は、私たちが暗やみの圧制から救い出して、愛する御子のご支配の中に移してくださいました。1:14 この御子のうちにあつて、私たちは、贖い、すなわち罪の赦しを得ています。

成熟のしるしとは何でしょう？皆さんは自分が成熟していると思いますか？誰か、成熟した人としてお手本になる人がいますか？ここにいる大人の全員が、何らかの形で成熟しています。また、改善しなければならない部分も自分で分かっているものです。けれども、霊的成熟はまったく別物です。クリスチャンになった瞬間に、霊的に成熟するわけではありません。また、成熟したクリスチャンがいるからといって教会が成熟するわけではありません。ビジネス戦略やリーダーシップに関する本を教会に適用してもどれも役に立ちません。霊的成熟は主から来るからです。今朝の聖句は、コロサイの信徒へのパウロの祈りの二番目の部分です。

祈りの最初の部分では、パウロは多くの面で実り多きコロサイの教会を神に感謝しました。二番目の部分でパウロは、教会を成熟させてくださるよう主に祈ります。教会が成熟すれば、人々は神を知り、神の御心を行い、神がなさった全てのことを感謝して神を礼拝するからです。今朝この祈りについて考えるにあたって、私たちの人生においても霊的成熟が必要であると言えるでしょう。私たちは神と神の御心についての知識において成長しなければなりません。私たちは、神に栄光をお捧げするよう生き、感謝を持って神を礼拝しなければなりません。パウロの祈りに注目するにあたって、クリスチャン生活を生きるために神を知ることがいかに大切かに注目していきたいと思います。

教会のための主の働き（12b-14 節）

祈りの最後の部分で、コロサイ教会のことから目を上げて、三位一体の神がまず教会に救いをもたらしてくださったことを感謝することにパウロの視点が移行しているのが分かります。今日ここから始めるのは、パウロが祈りの基礎として、神の働きに注目しているためです。

「1:12 また、光の中にある、聖徒の相続分にあずかる資格を私たちに与えてくださった父なる神に、喜びをもって感謝をささげることができますように。」

パウロは神がコロサイ人たちに「光の中にある聖徒の相続分にあずかる資格を与えられた」と言っています。御父が、彼らが相続にあずかれるように資格を与えるのです。御父が、彼らを価値あるものとされます。一度は神に背いた者であったのに、神は彼らに必要なものをお与えになったのです。

パウロが教会のために祈ったことは全てこれに基づいています。神がどのように相続にあずかる資格を与えるかについてはここで明記されていませんが、章の終わりにかけてパウロはこう言っています。

コロサイ 1:19-22 「1:19 なぜなら、神はみこころによって、満ち満ちた神の本質を御子のうちに宿らせ、1:20 その十字架の血によって平和をつくり、御子によって万物を、御子のために和解させてくださったからです。地にあるものも天にあるものも、ただ御子によって和解させてくださったのです。1:21 あなたがたも、かつては神を離れ、心において敵となつて、悪い行いの中にあつたのですが、1:22 今は神は、御子の肉のからだにおいて、しかもその死によって、あなたがたをご自分と和解させてくださいました。それはあなたがたを、聖く、傷なく、非難されるところのない者として御前に立たせてくださるためでした。」

御子を通して、御父は私たちと和解されます。それゆえに、私たちは光の中に聖徒の相続にふさわしいものとされるのです。相続は私たちのまことの兄、イエスを通して教会にやってきます。イエスの相続は全てのクリスチャンに分かち合われるのです。しかし、1つや2つのグループのためだけではありません。神はその恵を、世界中の人にお与えになります。私たちはそれを、世界中のあらゆる部族、国、言語の人達と共に分かち合うのです。私たちは光の中にこの相続を分かちあいます。終わりに神のご臨在の光うちに神にとどまるべく民が共に集うとき、彼らのうちには喜びがあります。今はそれをうっすらとしか見ることができなくても、私たちは光の中に互いに交わりを持っています。

コロサイ 1:13 「神は、私たちを暗やみの圧制から救い出して、愛する御子のご支配の中に移してくださいました。」

神がキリストを通して暗やみの圧制から救い出したのです。ファンタジー作品が好きな人は、このコロサイ 1:13 がファンタジー小説の一節のようだと感じるかもしれませんね。御父は、クリスチャンをただ暗やみから呼び出したのではなく、暗やみから救い出すために、ご自分の御子をお送りになりました。暗やみの国が暗いのは、闇にまみれた世だからだけではなく、心の内に罪の闇があるためです。神がイエスをお送りになったのは、ただ世の暗やみの力や罪深いものから救い出すためではなく、そういったものが彼らを滅ぼすことがないためです。クリスチャンは、自分の欲望のために生きる罪から救われただけではありません。全然違います。私たちクリスチャンは、暗やみからキリストの支配へと移されたのです。私たちの新しい主人が私たちの人生を治め、新しい使命を与えられるのです。私たちはキリストの御国の住民です。キリストの御国のルールは、暗やみの支配とはまったく異なります。暗やみの支配の最も重要なルールは、自分自身の面倒を見ることです。キリストの御国の立法は、神と隣人を愛することです。

コロサイ 1:14 「この御子のうちにあつて、私たちは、贖い、すなわち罪の赦しを得ています。」

愛する御子の御国には、贖いがあります。贖いはイエスによって十字架上で、そして復活によって成し遂げられました。私たちは、暗やみの圧制、罪の下にあつた者であることを思い出してください。この世の悪が私たちを脅かすだけでなく、私たち自身の心の悪が私たちをだまし、殺そうとしていま

した。イエスは罪の奴隷状態から私たちを解放するために死なれ、さらには私たちの債務を神に支払ってくださいました。罪は私たちをそれに縛り付けるだけでなく、神の裁きの下へ呼び出したのです。イエスは、私たちが支払うことのできない身代金を神に支払いました。罪人の代わりにイエスが死なれたことは、私たちの罪が赦されることを意味します。もう聞き飽きたと思わないでください。誰かがあなたに何か嫌なことをしたとき、そこから抜け出すのが難しいものです。誰かに傷つけられたとき、私たちはそれにとらわれ、赦し難いと感じますが、神はそうではありません。神は私たちを贖い自由にするために自ら御子を送られたのです。私たちは既に赦しを受け取っています。罪は、キリストにあって拭い去られたのです。私たちには、イエスの死と復活に基づいて神が赦してくださったこと、そしてこれからも赦してくださることを覚え、自分が罪を犯した時に神に伝えることができるという喜びがあります。私たちの身代わりのこの神の素晴らしい働きが教会を形づくり、それが神の民を作るのです。キリストの御国に神の民の居場所を与えます。使徒パウロの教会のための祈りは、神の素晴らしい働きに基づいて彼らが既に与えられたものにおいて成長することです。

2. 教会の成熟のためのパウロの祈り (9-12a 節)

パウロは、コロサイの教会のことを聞いてから祈り始めました。

「1:9 こういうわけで、私たちはそのことを聞いた日から、絶えずあなたがたのために祈り求めています。....」

「そのことを聞いた日から」とは、何を指しているのでしょうか？エパfrasがパウロにコロサイ教会の「御霊による愛」について話したと 8 節にあります。パウロは彼らのために具体的に祈っていました。それは、世の他のクリスチャンとの彼らのつながりのゆえです。コロサイ人たちは、貧しい人たちを助け、使徒の働きを援助していたようです。ですから教会のために祈り始めた日から、彼らが神の御心の知識によって満たされ、神が喜ばれるよう歩み、クリスチャン生活を耐えるべく強められるよう祈りました。そうすることで、彼らとすべての信者のために神がなさったすべての働きを神に感謝するからです。この祈りには「成熟」という言葉では表現されていませんが、成熟はパウロが求めているものでした。増し加わる知恵、聖さ、忍耐、感謝が、成熟を示します。

パウロは彼らが神の御心の知識によって満たされるよう願いました。言い換えれば、彼らが神の御前に賢いことは何なのかを知る霊的な知恵を持ち、福音を深く理解することができるよう祈ったのです。この知識は、学んで得られる単なる情報とは異なります。教会生活を改革するのは霊的知識です。忠実に聖書を読み、勉強することに関わります。三位一体の神に信仰を持って聖書を読むことは、私たちの人生の価値観を再形成します。神の御心の知識が増し加わるのに伴って、3つのクリスチャンの徳、信仰、希望、愛も増し加わるべきです。信仰、希望、愛が増し加われば、生活の仕方が変わります。それでパウロは教会のために「主になつた歩みをして」と祈ったのです。

パウロは、あらゆる善行のうちに実を結び、「あらゆる点で主に喜ばれるように」と祈りました。これはすごい祈りですね。パウロはローマ7章で自分自身の生活において、罪の力から自由になることができずと書いていますから、ここで実現できないことを祈っているのではありません。教会が福

音を信頼し続けるように祈っているのです。イエスに贖いがあるというメッセージを信じ続けるので、教会と教会員の働きは増し加わっていくべきです。パウロは、彼らが福音を信じ、それによって生き、より一層神について知るように祈りました。

祈りの次の部分は、クリスチャン生活のうちで、多くの人が今日あまり考えたくない部分を指摘しています。パウロは続けて、コロサイの教会が喜びを持って、忍耐と寛容を尽くしあらゆる力をもって強くされるようにと祈ります。言い換えればパウロは、喜びを持って苦しみ忍耐することに備えなさいと言っているのです。富む者でも貧しい者でも、男でも女でも、地元民でも外国人でも、人生は苦難の連続です。クリスチャン生活は忍耐の人生です。ただ歯を食いしばってストレスに耐えるだけではありません。喜びを持って耐えるのです。喜びは、人生に幸福や満足を覚えることです。（自分の人生に満足していますか？）困難な時でも、クリスチャンは満たされて生きることができます。どうやってでしょう？答えは祈りの最後の部分にあります。

12 節でパウロは、教会が彼らのただ中に救いをもたらした神に感謝できるよう祈ります。人生で困難が待っていたとしても、神が既に成し遂げられたことのゆえに、クリスチャンは喜び、神に感謝をささげるべきです。祈りの最後の部分を覚えていますか？御父は、聖徒の相続分にあずかる資格を私たちに与えられました。神は私たちの罪を赦すことで、私たちを贖われました。教会のために主がしてくださった全てのことのゆえに、私たちは喜びを持って耐え忍ぶのです。

結論と応用

パウロは、彼らの主への愛のゆえに、コロサイの教会を愛していました。パウロが祈ったのは、教会の皆が成熟を目指して成長して欲しかったからです。こんにち私たちも同じように祈ります。私たちのほとんどが、教会は週末だけのイベント以上のものだと思っています。それは私たちがクリスチャンとしてどのような者であるかに関わります。私たちは教会が福音の真理と愛を持って他に働きかけるのを見たいと熱望します。教会が成熟するために、私たちクリスチャンは成熟を目指して祈りに身を投じなければなりません。

私たちの代わりに働いてくださる主の働きが重要です。私たちは、主が私たちの心の中で、教会の中で働いてくださることを信頼します。キリストにおいて成熟を生み出し、適用するのが自分たちの仕事だと思えることはできませんが、主が私たちの人生で何かしてくださるのをただ待つ以外に何もすることがないということではありません。まず、私たちはこれらのことを祈らなければなりません。三位一体の神は、この働きを始められ、ご自身の約束を成し遂げ、その働きを完成されます。そこから私たちのやるべきことが2つあります。神の命令に従うこと、そして互いを愛することです。神の命令に従うためにまずは十戒と呼ばれるものから始めるのが良いでしょう（マタイ 5:21-48 のイエスの教えに注目してください）。クリスチャンの愛を学ぶなら、コリント第一の 13 章です。これらのことを自分の人生にあてはめれば、教会生活は知恵と忍耐を伴うでしょう。身体的成長と同様、霊的成長も時間がかかり、ぎこちない段階もあるでしょう。福音をいつも思い出しましょう。私たちのための三位一体の神の恵み深い救いのわざは、クリスチャンになったら止まるものではありません。御父、御子、聖霊は今も私たちの内に働いておられます。ですから私たちもパウロのように、主が信仰において私たちに成熟に導かれるように祈りましょう。